

運営調整部会 会議録

会議の名称	第6回 運営調整部会
開催日時	平成20年7月30日(水)18時30分から20時30分
開催場所	川口市職員会館 3階 会議室
出席者	(委員長)立石委員長 (部会員)金井委員、金子委員、神尾委員、平委員、高橋委員、永瀬委員、佐藤委員、鈴木委員、三宅委員、堀和委員、吉澤委員、石井委員、伊田委員、豊田委員
会議内容	・広報・PIチームからの提案内容について ・編集委員会からの素案の提案内容について
会議資料	・編集委員会資料、広報・PIチーム資料
発言内容	<p>運営調整部会長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第6回運営調整部会を開催する。 ・ 本日の議題は、広報・PIチームからの提案の審議及び、編集委員会からの提案の審議である。 ・ 市民フォーラムの開催について審議したい。 <p>広報・PIチームからの提案内容について</p> <p>広報・PIチーム</p> <p>市民フォーラムについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 進行については、司会を堀和委員、司会補佐を林委員としたい。 ・ 立石委員長から挨拶の後、第1部として三宅委員から講演、質疑応答を経て、岡村市長からご挨拶いただく。 ・ 第2部はパネルディスカッションで、コーディネーターは平委員である。パネリストは編集委員が4人選出してもらいたい。質疑は当日の時間の関係上割愛としたい。 ・ 策定委員の皆様には、最低2名以上の集客をお願いしたい。 ・ 駅頭広報活動は、もう少し詰めて、各検討部会に説明したい。 <p>対話集会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 対話集会を開催し、市民の意見を聞きたい。市内5箇所に対話集会を行う。想定する人数は1つの地区で20～30人だ。時期は、フォーラムの後、3週間程度の間で行う。どの検討部会がどの地域を担当するかは抽選等で決めたい。詳細は各検討部会で詰めてもらいたい。 ・ 市民団体向けに出前対話集会を開催したい。広報・PIチームが中心

となり企画して実施したい。前回までの会議で対話集会を開催することは概ね同意をいただいているが、今後は広報・PIチームと事務局で詰めて、正副部会長と協議して進めていきたい。

- ・ 対話集会は、各検討部会で詳細を詰めるのか。
- ・ 各検討部会にお任せしたいと考えている。(広報・PIチーム)
- ・ スケジュールとの関係だが、対話集会では、その時点での素案を提示して意見をまとめて、取り入れるという考えでよいのか。
- ・ 市民フォーラムで使うものと同じでよいかと考えている。(広報・PIチーム)
- ・ 9月14日までに素案がバージョンアップしてまとまっている可能性は低いと思う。各検討部会では8月中に意見出しを終えているが、対話集会ではどのバージョンのものを使うのかを決めておいた方がよい。それによって開催時期も変わってくる。
- ・ 編集委員会を9月4日に開催するので、現在の素案より洗練されたものができると思う。フォーラムは、今日出ている素案(たたき台)で臨みたいと思う。対話集会は、バージョンアップできる部分があればしてお出ししたい。(編集委員長)
- ・ 素案の内容以外の意見が出たときの対応についてどう考えるのか。
- ・ 対話集会は十分に行う必要があるので、広報・PIチームと事務局でしっかり詰めていただきたい。
- ・ 分散型対話集会は各検討部会で考えるにあたって一定の柱がないといけない。検討部会間の違いが大きくなりすぎたはいけない。枠組みを提示していただけないか。

運営調整部会長

- ・ 議論を整理したい。市民フォーラムでは、素案(たたき台)を使用する。講演は三宅委員、ディスカッションのコーディネーターは、平委員である。ご説明いただいたような形で行いたい。

- ・ パネリストの4名は、1、2、4の各検討部会から各1名としたらどうかと考えている。第3検討部会からは私が出るつもりだ。(編集委員長)

運営調整部会長

- ・ 対話集会については、柱となる案を提示してもらいたいとのご提案をいただいた。
- ・ 今後細部を詰めてから各検討部会にお願いしたいと考えている。(広報・PIチーム)

運営調整部会長

- ・ 委員の皆さんからご意見はあるか。
- ・ フォーラムの内容に異論は無いが、登場者が皆、男性である。参加者が見た場合、男性中心のまちづくりだと感じるのではないか。今後の川口市にとってどうなのか。一般市民であるパネリストですら男性しかいない。
- ・ 司会の補佐を林委員にお願いしている。(広報・PIチーム)
- ・ 現実として仕方がない。そのような意見もあるとして、今の案で行けばよい。
- ・ 提案について必ず議論することが大切なのではないか。女性委員をという話は、一般市民から見ればそのとおりである。そのように考えるとフォーラムでは、例えば委員以外でもピンチヒッターとして女性に何か役割をお願いするなど、配慮が必要ではないか。

運営調整部会長

- ・ ご意見をどう取り扱うかということについては、運営調整部会で議論したいと考えている。
- ・ 対話集会の柱となる案については、他市の例を見れば質問なども想定できるだろう。広報・PIチームと事務局で案の作成を進めていただ

いたほうが良いのではないか。

運営調整部会長

- ・ 広報・PIチームで企画を進めていただきたい。
- ・ 駅頭広報活動も広報・PIチームが中心となり進めていただきたい。

編集委員会からの素案の提案内容について

運営調整部会長

- ・ 次に編集委員会からの提案を審議したい。

編集委員長

- ・ できるだけ意見が一方に偏らないように配慮し、民主的に開催してきたので時間がかかってしまった。市民が作ったものとしてはこのようになることはご留意いただきたい。
- ・ 第4検討部会のようにコンパクトな提案をされた検討部会もある。まとめるにあたり、それをそのまま採用はできなかったが、内容については部分部分に考えを反映している。
- ・ 第1検討部会のように体系も含め精度の高い案を出したところもある。全体の構成を重視している部分があり、それを考慮すると議論にならなかった。

問題点

- ・ 条例のスタイルや体系を重要視して精度を高め過ぎた検討部会があり、個別の内容を「全体で述べている」と言われて話がかみ合わず、議論にならなかったところがあった。スタイル、体系作りが重要なことは理解しているが、例えばスタイルをシンプルにしたとたん、内容を検討する前に消えてしまう意見がでてきてしまう。市民も今後意見を挟む余地がなくなるだろうと考え、後でやるよう提案をした。
- ・ 5つの意見をまとめるというより、どれにするかという検討部会の利益代弁者になっている部分があり、一市民としての内容の議論ができなかった。
- ・ 検討部会では順序や構成を考えずに、条例に入れたい事項といった点に立ち戻って、そこだけを議論して欲しい。順序や構成は学識の先生方や事務局にまかせてはどうか。
- ・ 先生方にも色々な考え方がある。各検討部会の委員はその考え方に慣れてしまっていて、互いに譲らない状況になっている。
- ・ 委員が、条文として表現がどうかや、現実的な運営や費用の問題など

を考えるようになっている。

- ・ 意見を並べただけの検討部会に比べ、綺麗に纏めてきた検討部会が勝ちといった雰囲気になってしまっているが、本来は何が求められていて何を盛り込むかが大切であるはずではないのか。そういう方向でやっていくことを容認してほしい。我々は素人であることに立ち返りたい。
- ・ 委員の知識が高まり過ぎていて、フォーラムや対話集会でも一市民の意見を素直に聞けなくなってしまうのではないか。
- ・ いつかは纏めなければならないが、纏めるのはぎりぎりまで引っ張ったうえで、ある時点でぱっと洗練されたものにしたほうが良い。

運営調整部会長

- ・ まずは編集委員会の運営についてご意見いただきたい。
- ・ 先生方も他の自治体でこういう経験をされていると思うが、その点アドバイスをいただければと思う。(編集委員長)
- ・ もっと時間をかけてこのまま議論していくのか、ここでいったん止まってP Iを行うという考えなのか。
- ・ 体系や条文を洗練させる作業は短期間でできるはずで、それよりも編集委員会では条例に何を定めるかを議論したほうがよいと思うようになった。最初は全てやる意気込みだったが現実として無理で、細部の議論に陥ってしまう。例えば「市民」という定義だけで何時間も議論している。洗練させる作業は2、3週間もあればできるだろうからそこまでは意見を盛り込んでいきたい。(編集委員長)
- ・ もう時計の針は戻らないし、「たれば」架空の論争をしても始まらないだろう。大変な重圧のなかで苦労されて気持ちはわかるが、異なる意見を議論してまとめることは大切で、そうしなければあとでしこりが残ってしまう。あせっては委員の意見を吸収し取りまとめることも難しくなる。大変なことは理解するが、ここまで積み重ねてきたのだからこれを尊重して発展させていただきたい。投げ出さず、あせらず、皆が責任を負って実施していくことが重要だと思う。
- ・ まとめるにあたって苦労したと思う。たたき台といえども作り上げて

いただいたことは素晴らしいことだと思う。各検討部会で検討する際には、長になった方の責任感が込められているので、尊重するべきである。

- ・ 不恰好な素案となったとしてもそれでよいと思う。自分自身、第1検討部会の案は単語レベルで吟味した。関与したことに喜びを感じた。市民にここまで意見を言わせてくれる会議は無いのではないか。検討部会ごとの差もこれまで学び積み重ねたものがあったということなのだから、それで考えがぶつかりあうことをネガティブに捉えてはいけない。口をはさまずにここまでサポートしてくれる事務局や先生方がいて、作れることも喜んでいい。
- ・ こうなることを予見して編集委員にならなかった。検討部会を代表しつつもまとめようと思うと妥協せざるを得ない。広報・PIチームに参加しているが、目的は、市民1人1人にこのことについて考えてもらいたいということだ。
- ・ これからも市民からどういう意見が出てくるかわからない。場合によっては期限を延ばすことも必要だ。
- ・ 編集委員会は大変だと思う。内容の議論にならないところがあるということだが、そういうものを出していいのを感じる。いまさら戻るわけにはいかないが、もっと内容を編集委員会に委ねてよいのではないか。いずれは全体の策定委員会に帰ってくる。編集委員会の自由な方針に委ねたほうが、委員の負担が減ってくるのではないか。また、体系も統一的なものになってくるのではないか。

運営調整部会長

- ・ 最終的に計画がずれるのは問題がないし、できるだけ多くの方の意見を聞こうというスタンスだ。最終的には皆さんの同意をいただいた上で方向性を見出していかなければならない。
- ・ 市民参加をしている市民はどんどんプロ化していくものだ。議員も同様だろう。市民参加には勉強して知識が深くなればなるほど物分かりがよくなり形骸化していく一種の矛盾がある。委員長はその点を気にされていると思う。我々もそれはぜひ共有させていただきたい。
- ・ 結果的には完成しすぎないものが出てきて良かったのではないか。委

	<p>員の勉強の度合いも微妙に良い頃合だと思っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 検討部会の縦割り化の解消については、検討部会内で気心が知れいい意見が出てきているので、再編成するのは難しいかもしれない。どうだろうか。 ・ 検討部会長の考えに染まってきているので、検討部会長だけを変えるのも一案だと思っている。検討部会の意見を尊重することよりも、いいものを作ればいいと思っている。(編集委員長) ・ 編集委員の入れ替えも考えられるだろう。半分だけとか。 ・ 山に例えると峠のような状況だ。このようなプロセスを経ているということが伝わらないといけない。 ・ たたき台は第2検討部会が検討しなかった部分もあり、良いものが出てきている。 ・ 今後検討部会でどういう風に議論を進めていくべきかというのが重要である。今一度何を盛り込みたいか、何を言いたいのかというところを中心に議論したほうが良いのではないか。 ・ 部分的に同意が得られないのならいいが、全体の考えや構成が食い違っていると中身の議論に入れない。検討部会には部分の議論をしてもらって、それをまとめて構成するのは最終的に事務局や先生にお願いすればいいと思っている。順序や体系、構成的なものは市民には難しいはずで、内容を議論していただきたいと思っている。(編集委員長) ・ 後戻りできないし難しいところだ。委員会の構成がこうなっているからだろうが、かといって今から検討部会長を変えるというのは正直自信がない。文案は行政に任せて、どういった内容を盛り込むかということから作るということもできると思う。スタイル、構成及び流れは内容を議論した後に委員長がやりやすいようにやっていただければと思う。 ・ 長時間、民主的にやられていると思う。 ・ 編集委員長がやりやすいように進めていただければよいのではないか。 ・ 今後しばらくは、各検討部会に投げるのはやめたほうが良いのではない
--	---

いか。全体会の話では、検討部会が素材を出して、編集委員会がそれを料理するという事だった。よって、各検討部会は料理が出てくると思っている。検討部会に投げると、内容が具体化されて、つまりまた素材が出てきてしまうし、スタンスが異なっている中で、混乱が生じるだろう。よってもう一度、検討部会を気にせずに編集委員会に揉んでいただいたほうが良いのではないか。

- ・ 策定でよくあるのは、ある程度まで議論した後、事務局にまかせる例だが、今回はそうはしていない。
- ・ 今まで大変だが、これからのほうがむしろ大変ではないか。「うちの検討部会では」といっているようでは絶対に条例は作れない。編集委員会に任せるのも大変だと思う。検討部会を「市民」「行政」といった内容ごとに10名から20名の範囲で再編成したほうがよいのではないか。
- ・ 川口市で何を実現するのかということ、どういう市政を実現したいのかということが、まだよくわからない。改めてそういった検討も必要ではないか。
- ・ 方針は運営調整部会で、今日決めてもらいたい。まずは縦割りのイデオロギー対立を解消する必要がある。検討部会再編成などをやって、それでもうまくいかなかったとしても、それが、市民がつくるところなるということなのだろうと思う。
- ・ 最初に分業制は良くないという話だったが、編集委員会で素案までまとめるのであれば、ここまで意見が出ていることだし分業制も必要だろうと思う。ただし、編集委員会で最後までまとめないである程度の段階で専門家と事務局に任せるといふのなら、話は別だ。私も勉強をしているが一市民に判断を求められても難しい。
- ・ 先生方も、検討部会員の意見を尊重して自分の考えを抑えている部分がある。一市民になったつもりで自由に意見を言っていただいて、知識や経験を生かしていただいたほうがいいものができるのではないか。
- ・ 今のままでは5つの案の中から1つを選ぶようになってしまう。もし合意できたとしても皆納得はしないだろう。(以上 編集委員長)

運営調整部会長

- ・ 1つめは検討部会に素案たたき台を持ち帰って内容や思いに特化し

て検討してもらおう案、2つめは検討部会を検討部会長の交代を含め再編する案、最後は編集委員会だけで細部にこだわらずにもう少し詰めてもらおうという3案であったと思う。

- ・ それぞれ一長一短あると思う。調整部会の中では問題を認識できるが、検討部会の人たちがそういう認識に達しないで感情論に走っては大変だろう。編集委員長のような認識に全員が立っているとは思えない。議論を重ねると前進する場合もあれば乖離することもある。検討部会に戻すと混乱するとの意見もあるが、混乱しながらも議論していくことで一つになるのだろう。そうでないと人任せになってしまう危険性がある。
- ・ 編集委員が検討部会のことは忘れて一市民に戻って参加することで変わるのではないか。また、編集委員会は中身を中心にして、詰めは専門家の方をお願いすればよいと思う。各検討部会でも中身についてだけ議論してこいということにすればよいのではないか。
- ・ 総則的な部分を編集委員会でやって、あとは各検討部会が分業して検討するというのはどうか。
- ・ 各検討部会に一回戻したい。各検討部会が素案となる案を作ろうと提案を出したわけなので、編集委員会の結果を見て、それをどう受け入れるのかも一回議論するべきだ。時間がかかっても良い。
- ・ 私も今の意見に賛成で、編集委員長の悩みをどう共有すればよいかと考えたとき、検討部会委員はその立場や思いが飲み込めないことが大いにありえる。しかし検討部会にも共有してもらうことが必要だ。検討部会の殻があっても自治基本条例を作るという大枠があるのだから、検討部会の議論を繰り返すことで、前に進めることもある。
- ・ 編集委員の意識が検討部会代表から一市民に変わり、中身の議論をするのであれば良いが、全体の構成に固執するのであれば、編集委員長として切り盛りする自信は無い。意識が変われば良いが、なかなか考え方を変えるのは難しいだろう。(編集委員長)
- ・ 人間は一見変わっていないように見えても変わっているものだ。検討

部会に返せば、返したなりに新しく議論すると思う。全く変化がないということはない。

運営調整部会長

- ・ 各検討部会からの盛り込みたい内容から編集委員会が素案たたき台を作った。この素案たたき台を検討部会に戻すが、編集委員が直面している問題を各委員に共通認識を持ってもらう作業が必要だろう。その上で、素案に盛り込みたい思いを、それぞれの検討部会のテーマは別にして、考えていただきたい。それと同時に、今後の素案のとりまとめをどのようなにすればよいか、運営調整部会で調整する必要がある。
- ・ 今後のやり方で一点配慮してほしい。忙しい中來ている委員が離脱しないようには気を使ってもらいたい。
- ・ 編集委員が検討部会代表になってしまったのは、検討部会が開かれなくなることが原因ではないか。編集委員会の議論をフィードバックできずに検討部会の考えを頑なに守らなければならず、編集委員は立場上つらかっただろう。検討部会を定期的を開いておけば、編集委員会の議論に理解を示してくれることもある。検討部会の縦割りの弊害を解消できるのではないか。
- ・ 5 検討部会の考えを盛り込もうとしてもうまくくっつかないのは当然だろう。共通理念、ビジョンがないとうまくいかないと思うのだがどうか。
- ・ 「市民が主人公」ということ、また「実効性ある条例を作ろう」ということでは編集方針として合意を得ている。もっと具体的なもの、地域のビジョンや川口らしさといった点に議論が入っていき、また、前文を考える過程などでそういった点も詰まるのではないか。部会によっては大分議論をしてきていた。(編集委員長)
- ・ 今までの流れでは各検討部会からの意見で素案たたき台を作ったのだから、各検討部会に戻るのが筋だろう。しかし各検討部会から新たに出てきたものを一つに纏めるのはまた大変な労力が出てくるだろうから、先ほど申し上げたように、次は、編集委員に任せて、一つの案

になるようにまとめていただくしかないだろう。今度は編集委員会に相当の権限を持たせるべきであり、そのうえで重大な問題があれば、運営調整部会等で諮ればよい。

- ・ いまさら検討部会をシャッフルするのは難しいだろう。今後は専門の項目を各検討部会に割り振って進めるべきではないか。

運営調整部会長

- ・ 今のご意見や編集委員長の要望をふまえて検討していただきたい。
- ・ 検討部会で一つの意見にまとめるというより、ディスカッションの中で出る各委員の意見、検討部会としてどのくらいの許容範囲があるのかという雰囲気編集委員にはつかんでいただくことが重要ではないのか。この素案たたき台を見て、考えが変わる委員もいるだろう。
- ・ 今度は逆に編集委員としての立場で話をするようになるかもしれない。
- ・ 編集委員会では委員は好きなことを言っている。私も一委員ならそうなるかもしれないが。まとめようという意識が感じられない。(編集委員長)
- ・ 司会を毎回変えるという手もあるのではないか。
- ・ 毎回議論の流れが変わってきてしまう。もっともそろそろ異なった流れに変えたいとは思ってはいるが。(編集委員長)
- ・ まがりなりにもこのたたき台が出来ているのは、各委員が妥協点を見つけてきたということだろう。検討部会の考えを何が何でも貫くという姿勢ではなかったのではないか。
- ・ いい議論になってはきている。ここからだとは思いますが、同じ様な進み方では、これまでの3倍の時間がかかるのではないか。(編集委員長)

運営調整部会長

- ・ 運営調整部会でも編集委員長の役割を認識できたのではないか。先ほどいただいたご意見を各委員さんに理解していただけるように説明し

ていただきたい。

その他

事務局

- ・ 条例素案とフォーラムについて、今後各検討部会で議論していただきたい。運営調整部会を9月8日の18時30分から開催したい。フォーラムの最終確認と、編集委員会で各検討部会からの意見を纏めることができればその確認をお願いしたい。そこで確認できバージョンアップが可能であればフォーラムで使うかどうかも検討していただきたい。
- ・ 編集委員長から、編集委員会の件について検討部会で話してから運営調整部会で検討するということがあったが。
- ・ 検討部会を再編成するのか委員の意識を変えるのか、決めてもらわないと先に進めない。(編集委員長)

運営調整部会長

- ・ どうするのかは運営調整部会で検討する必要がある。
- ・ 各検討部会で8月上旬に話した後に運営調整部会で方針を決めていただかないと、編集委員会を開けない。縦割りの問題が解決されないと無理だろう。(編集委員長)
- ・ 各検討部会から要請すれば、編集委員長が検討部会をまわって説明してもらえるのか。
- ・ 各検討部会でこうしたら縦割りが解決するのではということ各検討部会で検討していただきたい。その結果を受けて運営調整部会を開いてもらいたい。(編集委員長)
- ・ 各検討部会で話し合ったあとならば、編集委員会が開かれても委員が言いたいことをいう傾向は解消されている可能性もある。
- ・ それならそれでいいが、一度各検討部会でこういうやり方が出たということを確認するのが本筋かと思った。(編集委員長)

	<p>運営調整部会長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 時間は刻一刻と過ぎている。編集委員に委員長が問題点を話して見るのも手なのかと思う。運営調整部会を開いたからといって答えが出てくるとは限らない。検討部会で議論していただかなければならないかと思うが、今日の内容が報告されれば、編集委員も変わるのではないか。 ・ 編集委員会で扱おうとも思ったが、難しいとも感じた。運営調整部会の9月8日のスケジュールを尊重するのであれば、次回の編集委員会は委員会のあり方と各検討部会への出し方を検討したい。(編集委員長) ・ もうひとつ、検討部会案ではなく各委員案をだすというものもあった。そのような意見をもとに、つまり検討部会としての意見を無くして編集委員会をやれば、かなり会議の形態は変わると思う。それでなお弊害があるというのであれば、運営調整部会でシャッフルなども考えなければいけない。 ・ 各意見をまとめないで並べて出していただくと議論がしやすかった。今後もそういう形だとやりやすい。(編集委員長) ・ これまでは素案たたき台が無かったから、各検討部会の意見を拠り所としていたのだろう。今後はたたき台があるので、編集委員はたたき台をベースで議論するだろうと思う。検討部会の意見によらないで議論しようなどと決めて言動を縛っては、それで反感を買うこともある。セクト化が問題とおっしゃっていたが、本来的にはセクトがなければ議論ではない。やってみれば人間が変わっていくものだ。 ・ 素案に向けて洗練されたものをというのはいったん保留となると理解している。(編集委員長) <p style="text-align: right;">以上</p>
次回以降日程	9月8日(水)18時30分～

